

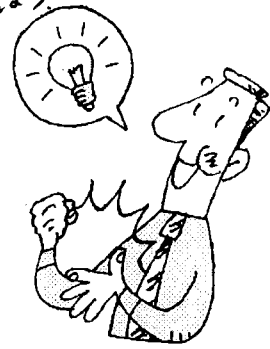
5/31(土) まいど! 倫理号です。連日暑熱が続いて皆様如何お過ごしですか  
人向えして自分の事を中心です。人様にあげと自慢はダメ。

今週の倫理 875号 謙虚でなければいけません。

2014.5.31~6.6

木陰様と感謝に大神様に誓いましょう。  
幸々屋の主人鳥

# 人の喜びを わが喜びに



え・小島サエキチ

五月のテーマ

人生の岐路

あ

る人が脱サラをして小売店を  
開業しました。一年が経

過しましたが、売上げが予想に反  
して伸び悩んでいます。(こんなこ  
となら脱サラするべきじゃなかつ  
た)と悔やまれてなりません。

「ここはもともと立地が良くな  
い」(バイトの店員の態度が悪いか  
ら売れないのだ) (結局、この商売  
は儲からない。熱心に勧めたあい  
つが悪い)と、つい何かの「せい」  
にしてしまう心がよぎります。そ  
の気持ちは、日を追うごとに増す  
ばかりです。嫌々商売を続けるう  
ちに、経営状況はさらに悪化して  
いくのでした。

さて、このように「せい」にし  
ていて、はたして次の一手が生ま  
れるでしょうか。

人は、多かれ少なかれ、他力本  
願の気持ちはあるものです。状況  
さえ整えば自社も良くなる、と思  
いがちです。しかしそれでは、自  
社の好不調も、周囲次第となつて  
しまいます。

日々刻々と社会状況が変化する  
中、「タナからばた餅」ではなく、

喜びの仕事を自ら創造していくに  
はどうすればよいのでしょうか。

苦境から脱出する鍵は、「徹底し  
て人を喜ばせることにある」と説  
いたのは、倫理研究所・丸山竹秋  
会長(二代目理事長)でした。

「今日はお客さんをどのくらい喜  
べたであろうか。数は少なくとも  
たが、また新たに入る見込みもな  
いが、とにかく現在、いっしょに働  
いてくれるわが従業員たちを、今日  
どのくらい喜ばせたであろうか。こ  
うしたことがらを、徹底的に追及し  
ながら、毎日毎日働きぬいてゆく  
ことです。そうしておりますと、か  
ならず時がきて、こんどは以前にも  
増して、はるかに、りっぱな仕事  
ができるようになるのです」

『中小企業の突破口』より

「あれが悪い」(これでは駄目だ)  
と人のせいにしたり、ただ悲観し  
ているより、「やると決めた以上は  
やるのだ」と心を決め、人を喜ば  
せることをひたすら一所懸命にや  
る。人の喜びは、必ずわが喜びと  
なり、今の仕事への喜びを育てて  
くれるものです。

住宅建築の会社を経営するT氏  
は、休日になると、必ずといって  
いいほど地域の清掃に打ち込んで  
います。高速道路の真下など、人  
が来ないような所にも足を運び、  
ヘルメットと作業着を着て、四時  
間ほどゴミを拾います。

「人様を見てないところで、いか  
に人様のために働けるかと思つて  
清掃しています」と語るT氏。清  
掃で日焼けした顔で、ニッコリと  
笑います。

T氏の奉仕活動は、傍から見れ  
ば、「なぜそこまで?」とも思える  
活動です。しかし、地域のために  
一身に打ち込んでいるうちに、人  
の喜びがわが喜びとなつて、仕事  
へのエネルギーを生み出していま  
す。喜びの効果が波及するように、  
直接名指しで、新規の建築依頼が  
届くことも多いそうです。

人生の岐路で迷う時、自らを鼓  
舞して、人を喜ばせることを実践  
の目標に掲げていきましよう。そ  
の喜びの働きこそ、苦境の中で事  
態を好転させる、大きな原動力と  
なるはずで